

## 外航コンテナの国内フィーダ輸送実績（27年度報告）

平成27年度における外航二次コンテナ輸送量の実態調査結果は以下の通りである。

### 1. 調査対象会社

内航海運事業者、旅客フェリー（長距離フェリー）事業者の内、前回の調査対象会社で輸送実績のあった事業者を中心に、12社に対して調査を実施した。

#### (1) フィーダ・コンテナ輸送事業者

調査を依頼した12社（26年度13社）すべての事業者から有効回答を得られた。

#### (2) 使用船腹

使用船腹は、一般貨物船23隻（26年度18隻）、コンテナ船24隻（26年度22隻）、RORO船5隻（26年度3隻）、フェリー7隻（26年度8隻）、その他2隻（26年度4隻）であり、合計61隻（26年度55隻）となった。

〈参考〉年度別使用船腹量(平成23～27年度) (単位:隻)

	H23	H24	H25	H26	H27
一般貨物船	20	22	17	18	23
コンテナ専用船	21	19	19	22	24
RORO船	4	5	5	3	5
フェリー	5	7	7	8	7
その他	4	4	3	4	2
合計	54	57	51	55	61

### 2. 調査結果

調査結果について下記に要約する。なお、詳細を8～17頁に示す。

#### (1) 輸送実績

実入コンテナ	459,429	TEU	26年度(425,501TEU)対比	8.0%	増
			25年度(399,183TEU)対比	15.1%	増
空コンテナ	241,853	TEU	26年度(273,704TEU)対比	11.6%	減
			25年度(245,019TEU)対比	1.3%	減
総計	701,282	TEU	26年度(699,205TEU)対比	0.3%	増
			25年度(644,202TEU)対比	8.9%	増

〈参考〉年度別輸送量(平成 22～27 年度)

(単位:TEU)

	実入コンテナ	空コンテナ	合計
平成 22年度	383,011	236,021	619,032
平成 23年度	353,955	227,522	581,477
平成 24年度	384,457	226,798	611,255
平成 25年度	399,183	245,019	644,202
平成 26年度	425,501	273,704	699,205
平成 27年度	459,429	241,853	701,282

## (2) 積地・揚地別輸送量

### 1) 積地別輸送量

平成 27 年度における積地別の輸送量は、関西（実入 97 千 TEU、空 125 千 TEU、計 223 千 TEU、31.8%）、関東（実入 89 千 TEU、空 37 千 TEU、計 126 千 TEU、18.0%）、中国（実入 107 千 TEU、空 13 千 TEU、計 121 千 TEU、17.2%）、東北（実入 45 千 TEU、空 14 千 TEU、計 59 千 TEU、8.5%）、九州（実入 37 千 TEU、空 21 千 TEU、計 59 千 TEU、8.5%）、中部（実入 40 千 TEU、空 7 千 TEU、計 47 千 TEU、6.8%）、四国（実入 32 千 TEU、空 11 千 TEU、計 43 千 TEU、6.2%）、北海道（実入 8 千 TEU、空 10 千 TEU、計 19 千 TEU、2.7%）の順であった。

### 2) 揚地別輸送量

揚地別の輸送量は、関西（実入 188 千 TEU、空 44 千 TEU、計 232 千 TEU、33.2%）、関東（実入 100 千 TEU、空 28 千 TEU、計 128 千 TEU、18.3%）、中国（実入 38 千 TEU、空 88 千 TEU、計 126 千 TEU、18.0%）、東北（実入 41 千 TEU、空 23 千 TEU、計 64 千 TEU、9.2%）、九州（実入 30 千 TEU、空 17 千 TEU、計 48 千 TEU、6.9%）、中部（実入 26 千 TEU、空 16 千 TEU、計 43 千 TEU、6.1%）、四国（実入 18 千 TEU、空 19 千 TEU、計 37 千 TEU、5.4%）、北海道（実入 15 千 TEU、空 3 千 TEU、計 18 千 TEU、2.6%）、沖縄（実入のみ 0.1 千 TEU、0.02%）の順となった。

## (3) 地域間流動

平成 27 年度における地域間の流動量は、関西／中国間、関東／東北、関西／九州の間で多く、概ね過去と同様の傾向にあるが、前年度実績との比較から、関東／東北間、関西／九州、中国間は増加傾向であり、関西／四国、関西／中部、関東／中部の間では減少した。

① 実入、空コンテナ別の地域間流動

実入コンテナの積量は、中国、関西、関東、東北の順で多く、空コンテナの積量は、関西、関東、九州、東北が多い。

実入コンテナの揚量は、関西、関東、東北、中国の順で多く、空コンテナの揚量は、中国、関西、関東、東北の順が多い。

② 20、40 フィート (ft) 別の地域間流動

20ft コンテナの積量は、関西、中国、関東、九州の順で多く、40ft コンテナの積量は、関西、関東、中国、東北の順が多い。

20ft コンテナの揚量は、関西、中国、関東、九州の順で多く、40ft コンテナの揚量は、関西、関東、中国、東北の順が多い。

3. 内航フィーダーの概況と増減要因

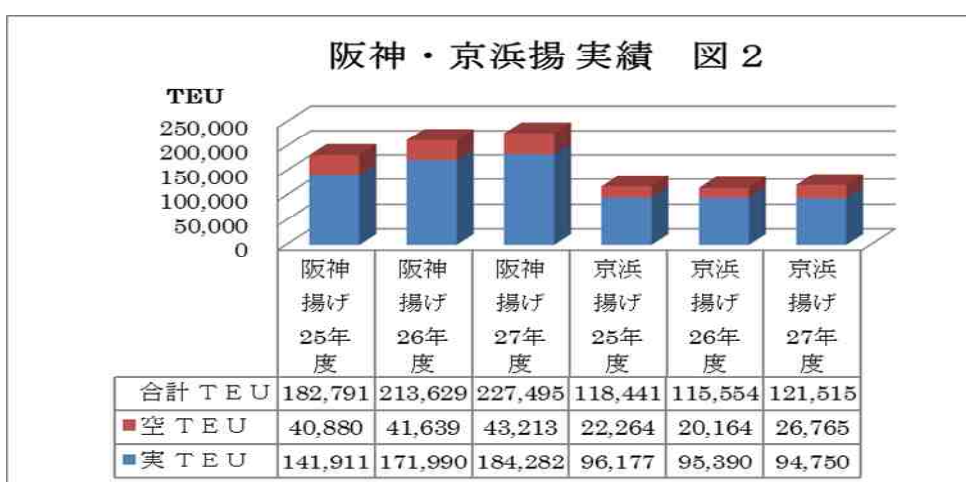
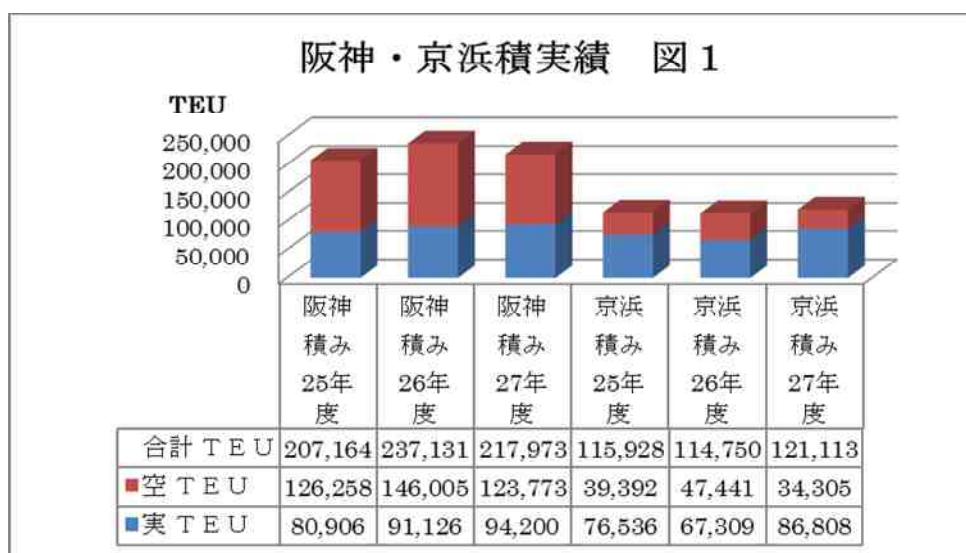
(1) 平成 27 年度の内航フィーダーの輸送量は 701,282TEU で前年度比 0.3%の微増であった。このうち実入コンテナは 459,429TEU で 8%増加し、空コンテナは 241,853TEU で 11.6%減少した。実入コンテナの増加は貨物の増加のみならず、後述するように外航アライアンスの寄港地が一部変更されたことも寄与した。それに対して空コンテナは、外航船社がコンテナのラウンド・ユーズ促進を図っているほか、空コンテナを回送する場合でも沿岸特許で自社外航船を利用するよう努めており、趨勢として内航フィーダーでの輸送は減少傾向にある。それに加えて今年度は、これまで阪神で外航船から揚げて西日本の地方港に回送していた空コンテナや、京浜で揚げて中部の地方港に回送していた空コンテナが釜山接続の日韓フィーダーに流出した。

(2) 今年度、内航フィーダーの輸送実績に影響を与えた要因の一つとして、G 6 アライアンス (\* 1) のうち、日本・台湾・韓国と北米東岸を結ぶサービス「P A 2」(\* 2) が変更されたことがある。従来「P A 2」の極東での寄港地は高雄－釜山－神戸－東京の順であったが、平成 27 年 5 月の変更で高雄の寄港が取り止められるとともに、釜山が極東最終港となった。そのため、従来は東京で外航船に接続していた名古屋・清水積の実入り (輸出) コンテナが釜山接続の日韓フィーダーに流出して減少した。他方、高雄接続であった博多、門司など九州出しの輸出貨を神戸接続で取り込んで増加した。中部地方の積み揚げが前年に比べて大幅減となり、特に輸出貨の積み揚げが 23% 減少 (平成 26 年度 52,296TEU→27 年度 40,211TEU) したのは、その影響と考えられる。

\* 1 G 6 アライアンスは、旧グランドアライアンスと旧ニューワールドアライアンスが 2012 年に合体したもので、メンバーは Hapag-Lloyd、OOCL、NYK、APL、現代商船、MOL

\* 2 P A 2 (Pacific Atlantic 2) は極東と北米東岸を結ぶコンテナ船のサービス

(3) コンテナ取扱量を地域別に比較すると、積み揚げとも関西、関東、中国の3地域が17%以上のシェアで、他に比べて際立っている。このうち中国は、実入コンテナの積み(輸出)が107,499TEU(全国の23%)、空コンテナの揚げが88,336TEU(同37%)で、ともに全国最多である。一方、関西と関東はそれぞれ国際コンテナ戦略港湾(阪神港、京浜港)を擁するも、両者の様相は対照的である。【図1、2】は最近3ヶ年度(平成25~27年度)について、阪神港と京浜港のコンテナ取扱量を抜き出して比較したものである。積み揚げとも、阪神港は京浜港の倍近い数量であるが、絶対量のみならず趨勢においても阪神港が京浜港を凌駕している。



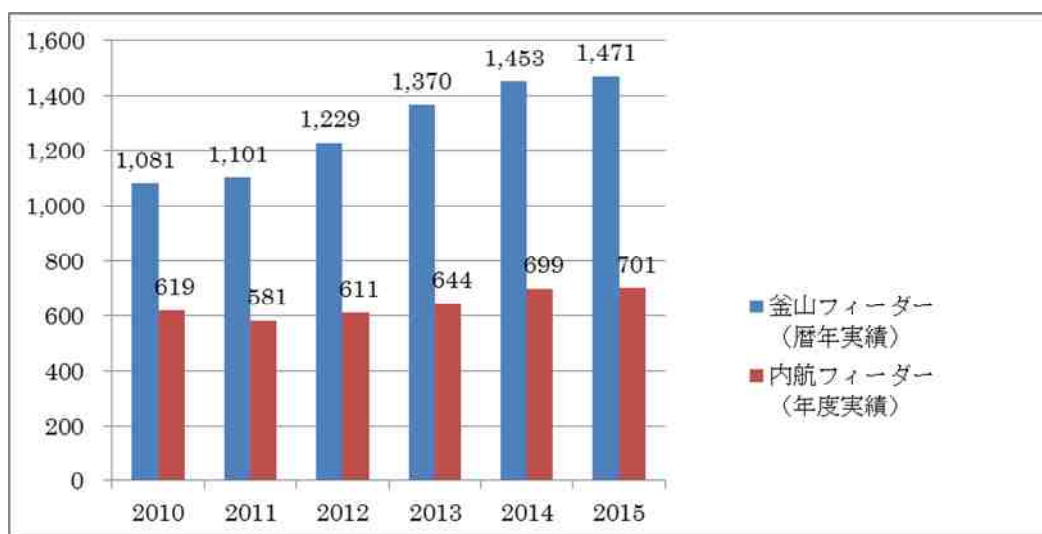
実入コンテナの揚げ（輸出）について見ると、阪神港が 25 年度 141,911TEU、26 年度 171,990TEU（前年度比 21%増）、27 年度 184,282TEU（同 7%増）と増加しているのに対し、京浜港は 25 年度 96,177TEU、26 年度 95,390TEU（前年度比 1%減）、27 年度 94,750TEU（同 1%減）と逆に減少が止まらない。地理的な位地関係では、阪神の方が釜山流出の可能性が高いと思われるが、現実には輸出に限って言えば、阪神の方がむしろ増えているのである。

阪神港に比べて京浜港の減少が気掛かりであるが、その原因の一つは、内航フィーダーからみたコンテナターミナルの使い勝手の善し悪しにあると考えられる。京浜港はターミナル配置が分散しており、内航フィーダー専用バースが設置されてなくバースホッピングや沖待ちを余儀なくされている。特に東京港の大井コンテナターミナルは連続バースであるが、作業が縦割りであるため機能を活かしていない。大型フィーダー船を投入しても、バースウインドウの障害から団子状態でバース待ちが発生し、運航効率の悪化を生じているという不満が事業者から聞かれる。ターミナルの物理的な問題であるが、つまるところは内航フィーダーに対する港湾当局及び港湾関係者の理解度の差を物語っていると言えよう。国際コンテナ戦略港湾への集貨促進のため、いくら内航コンテナ船の大型化や船隊増強を促しても、戦略港湾自体がバースウインドウをしっかりと提供できず、また無理なバースホッピングを強要するようでは、戦略港湾への集貨は進まないとの理解に立つべきである。

#### （4）韓国フィーダーの状況

2010～2015 年の内航フィーダーと日本～釜山フィーダー（以下「日韓フィーダー」という）の輸送量は【図 3】の通りである（内航フィーダーは年度実績、日韓フィーダーは暦年実績）。2015 年の日韓フィーダーは 1,471 千 TEU で前年比では 1%の微増であったが、2010 年と比較すると 5 年間で 36%増加している。これは同時期の内航フィーダーの輸送量の伸び 13%（619 千 TEU→701 千 TEU）を大きく上まわり、その結果、内航フィーダーに対する日韓フィーダー輸送量の比率は 2010 年に 1.75 倍であったものが、最近では 2.1 倍程度で推移している。【図 4】

【図3】内航フィーダー日韓フィーダー輸送実績比較（単位：千 TEU）



釜山港における日本発着のトランシップ・コンテナを日本の発着港別に示したのが次ページの【表A】である。日本の地方港だけでなく、阪神や京浜などのハブ港湾発着のコンテナさえも多数が日韓フィーダーに流出し、その動きが近年増加している点が注目される。すなわち、釜山でトランシップされる日本発着のコンテナは2010年～2015年の5年間で36%増加したが、名古屋、神戸、東京、横浜発着で釜山にてトランシップされるコンテナの増加率はこれを大きく上回り、54%～86%増となっている。国土交通省の「国際コンテナ戦略港湾政策」（平成28年3月）によれば、2014年の北米と欧州のコンテナ航路の寄港数は、釜山が41便/週なのに対して、京浜は26便/週、阪神は12便/週で、荷主の立場からすれば利便性の点でも大きく差がついている。国際コンテナ戦略港湾政策を足元から揺るがしかねない状況と言えよう。



【表A】釜山港における日本発着トランシップ・コンテナ取扱量推移（単位：千 TEU）

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2015年の 対2010年比率
博多	121	119	129	124	140	138	1.14
横浜	71	69	68	77	100	109	1.54
苫小牧	91	96	89	98	99	97	1.07
名古屋	51	46	52	74	98	95	1.86
神戸	44	49	62	72	77	79	1.80
大阪	53	63	77	79	86	70	1.32
東京	41	47	55	71	68	68	1.66
新潟	49	44	65	70	67	66	1.35
門司	53	23	50	48	45	46	0.87
その他	507	547	587	658	673	703	1.39
計	1,081	1,103	1,234	1,371	1,453	1,471	1.36

(出典：日本海事新聞資料より)

平成27年度内航船による外航コンテナフィーダー輸送量実績調査

[会社名及び使用船舶一覧表]

会社名	使用船舶		
	船種	船型(G/T)	隻数
南日本汽船(株)	一般貨物船	499	3
	一般貨物船	637	1
	一般貨物船	749	1
マツダロジスティクス(株)	コンテナ船	498	(1)
	コンテナ船	749	(1)
日本通運(株)	コンテナ船	7,323	2
	RORO船	10,470	2
	RORO船	10,497	1
	RORO船	10,507	2
鈴与海運(株)	一般貨物船	499	7
	コンテナ船	749	1
井本商運(株)	一般貨物船	498	2
	一般貨物船	499	7
	一般貨物船	731	1
	一般貨物船	749	1
	コンテナ船	498	1
	コンテナ船	499	5
	コンテナ船	748	1
	コンテナ船	749	9
	コンテナ船	2,464	1
	コンテナ船	7,390	1
その他	3,240	1	
西日本内航フィーダー(合)	コンテナ船	3,256	1
ナラサキスタックス(株)	コンテナ船	2,446	(1)
近海郵船(株)	コンテナ船	749	1
横浜コンテナライン(株)	コンテナ船	749	1
(株)ユニエックス	その他	548	1
阪九フェリー(株)	フェリー	13,353	2
	フェリー	15,897	2
四国開発フェリー(株)	フェリー	9,917	1
	フェリー	9,975	1
	フェリー	15,732	1
	一般貨物船		23
	コンテナ船		24
	RORO船		5
	その他		2
	フェリー		7
	合計		61

※ 隻数に表示の( )に関しては、共同運航使用等のため、合計隻数には含めず。



内航船による外航コンテナフィーダ輸送量 平成27年度実績

[積地別]

積地	実入コンテナ			空コンテナ			合計			%
	20'	40'	TEU	20'	40'	TEU	20'	40'	TEU	
北海道	1,004	3,905	8,814	1,781	4,468	10,717	2,785	8,373	19,531	2.79%
東北	7,074	19,284	45,642	1,668	6,273	14,214	8,742	25,557	59,856	8.54%
関東	12,034	38,615	89,264	7,752	14,770	37,292	19,786	53,385	126,556	18.05%
中部	5,603	17,304	40,211	3,130	2,227	7,584	8,733	19,531	47,795	6.82%
関西	19,334	39,316	97,966	31,570	46,835	125,240	50,904	86,151	223,206	31.83%
四国	12,667	9,774	32,215	2,643	4,319	11,281	15,310	14,093	43,496	6.20%
中国	19,047	44,226	107,499	3,673	5,044	13,761	22,720	49,270	121,260	17.29%
九州	9,846	13,986	37,818	7,862	6,951	21,764	17,708	20,937	59,582	8.50%
沖縄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%

総計	86,609	186,410	459,429	60,079	90,887	241,853	146,688	277,297	701,282	100%
----	--------	---------	---------	--------	--------	---------	---------	---------	---------	------

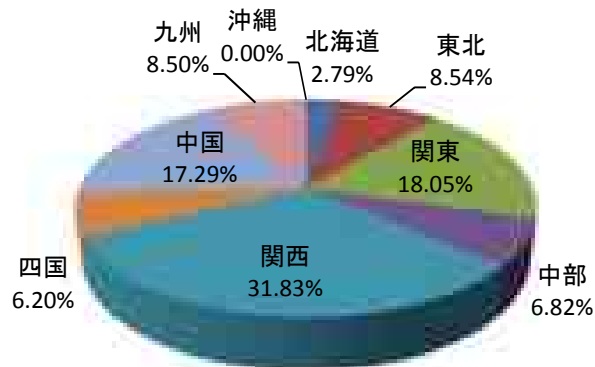
[地域別]

- 北海道：北海道
- 東北：青森、岩手、宮城、福島
- 関東：東京、神奈川、茨城、千葉
- 中部：静岡、愛知、三重
- 関西：大阪、兵庫、和歌山
- 四国：香川、愛媛、徳島
- 中国：広島、岡山、山口
- 九州：福岡、大分、宮崎、鹿児島  
熊本、長崎、佐賀

[積地港別]

- 北海道：苫小牧
- 東北：仙台、小名浜、八戸、釜石、大船渡
- 関東：東京、横浜、川崎、常陸那珂、鹿島、
- 中部：名古屋、清水、御前崎、豊橋、四日市
- 関西：神戸、大阪、姫路、泉大津、和歌山、
- 四国：今治、松山、新居浜、徳島、伊予三島、  
東予、高松、三島川之江
- 中国：水島、徳山、広島、岩国、防府、宇部、玉島、  
大竹、福山、三田尻中関
- 九州：博多、大分、志布志、ひびき、門司、細島、油津  
新門司、八代、長崎、播磨川内、伊万里

積地別取扱量



内航船による外航コンテナフィーダ輸送量 平成27年度実績

[揚地別]

揚地	実入コンテナ			空コンテナ			合計			%
	20'	40'	TEU	20'	40'	TEU	20'	40'	TEU	
北海道	2,107	6,465	15,037	141	1,573	3,287	2,248	8,038	18,324	2.61%
東北	5,005	18,098	41,201	5,017	9,264	23,545	10,022	27,362	64,746	9.23%
関東	15,281	42,453	100,187	5,228	11,621	28,470	20,509	54,074	128,657	18.35%
中部	5,096	10,729	26,554	3,625	6,632	16,889	8,721	17,361	43,443	6.19%
関西	41,682	73,333	188,348	11,781	16,369	44,519	53,463	89,702	232,867	33.21%
四国	3,989	7,334	18,657	10,208	4,561	19,330	14,197	11,895	37,987	5.42%
中国	5,199	16,600	38,399	17,962	35,187	88,336	23,161	51,787	126,735	18.07%
九州	8,178	11,374	30,926	6,117	5,680	17,477	14,295	17,054	48,403	6.90%
沖縄	72	24	120	0	0	0	72	24	120	0.02%

総計	86,609	186,410	459,429	60,079	90,887	241,853	146,688	277,297	701,282	100%
----	--------	---------	---------	--------	--------	---------	---------	---------	---------	------

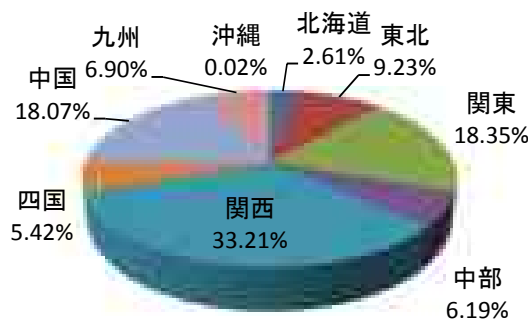
[地域別]

- 北海道：北海道
- 東北：青森、宮城、福島、岩手
- 関東：東京、神奈川、茨城、千葉
- 中部：静岡、愛知、三重
- 関西：大阪、兵庫、和歌山
- 四国：香川、愛媛、徳島
- 中国：広島、岡山、山口
- 九州：福岡、大分、宮崎、鹿児島  
熊本、長崎、佐賀
- 沖縄：沖縄

[揚地港別]

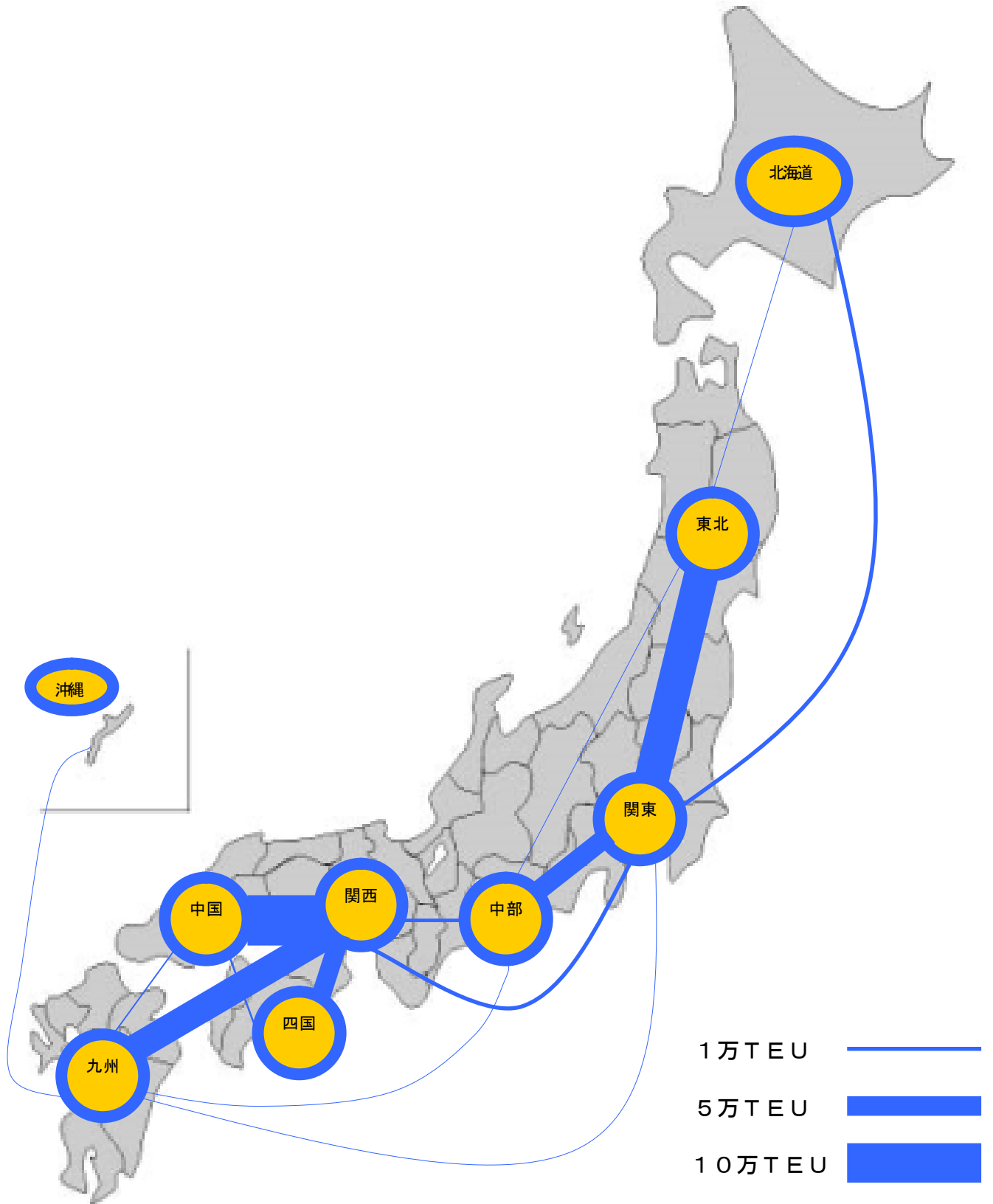
- 北海道：苫小牧
- 東北：仙台、小名浜、八戸、釜石、大船渡
- 関東：東京、横浜、川崎、常陸那珂、鹿島
- 中部：名古屋、清水、御前崎、豊橋、四日市
- 関西：神戸、大阪、姫路、泉大津、和歌山
- 四国：今治、松山、新居浜、徳島、伊予三島、  
高松、東予、三島川之江
- 中国：水島、徳山、広島、岩国、防府、宇部、玉島、  
大竹、福山
- 九州：博多、大分、志布志、ひびき、門司、細島、油津  
新門司、八代、長崎、播磨川内、伊万里
- 沖縄：那覇

揚地別取扱量





## 内航フィーダコンテナの主な地域間流動（平成27年度）

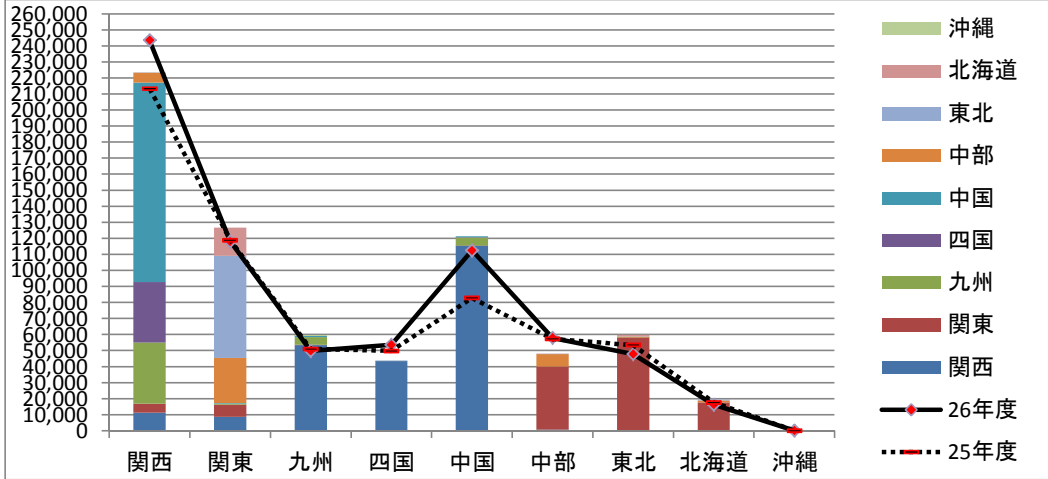


(実入り・空コンテナを含む年間の輸送量)

## 地域間流動比較(総計TEU)

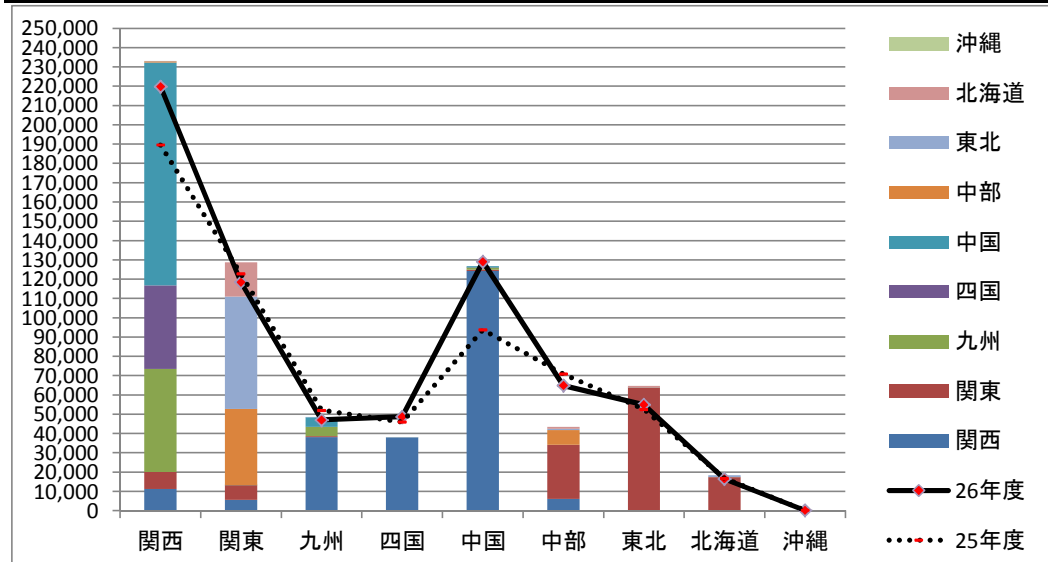
### 1. 積港地域別流動比較

積地	合計(25年度)	合計(26年度)	合計(27年度)	合計対前年比 (TEU)	合計コンテナ 対前年比(%)
北海道	17,693	16,225	19,531	3,306	120.4%
東北	53,432	47,768	59,856	12,088	125.3%
関東	118,868	118,008	126,556	8,548	107.2%
中部	57,277	57,867	47,795	▲ 10,072	82.6%
関西	213,283	243,507	223,206	▲ 20,301	91.7%
四国	49,811	53,510	43,496	▲ 10,014	81.3%
中国	82,826	112,491	121,260	8,769	107.8%
九州	51,012	49,829	59,582	9,753	119.6%
沖縄	0	0	0	0	—
総計	644,202	699,205	701,282	2,077	100.3%



### 2. 揚港地域別流動比較

揚地	合計(25年度)	合計(26年度)	合計(27年度)	合計対前年比 (TEU)	合計コンテナ 対前年比(%)
北海道	16,797	16,461	18,324	1,863	111.3%
東北	52,507	54,898	64,746	9,848	117.9%
関東	122,743	118,375	128,657	10,282	108.7%
中部	70,783	64,789	43,443	▲ 21,346	67.1%
関西	189,508	219,810	232,867	13,057	105.9%
四国	45,929	48,673	37,987	▲ 10,686	78.0%
中国	93,767	129,049	126,735	▲ 2,314	98.2%
九州	52,006	47,021	48,403	1,382	102.9%
沖縄	162	129	120	▲ 9	93.0%
総計	644,202	699,205	701,282	2,077	100.3%



## 地域間流動比較(実入、空TEU)

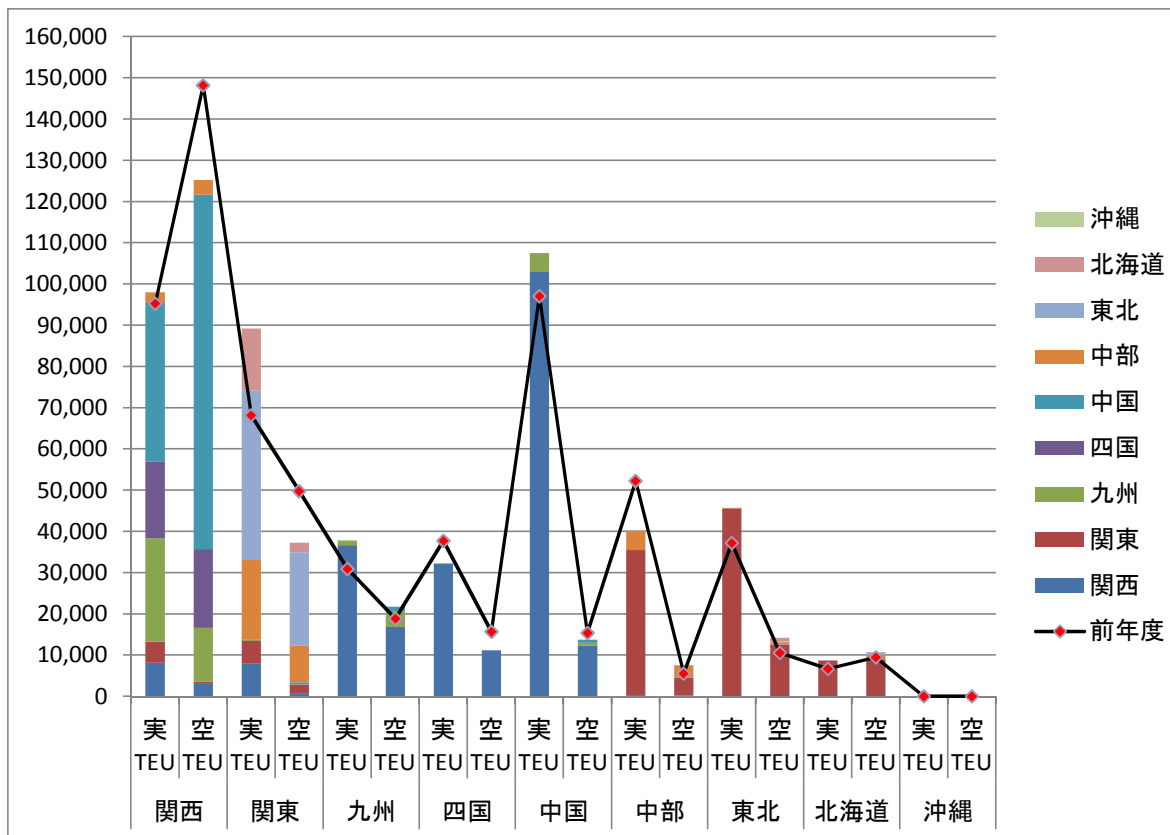
### 1. 積港地域別流動比較

実入コンテナ対比表

積地	合計(26年度)	合計(27年度)	合計対前年比(TEU)	合計コンテナ対前年比(%)
北海道	6,701	8,814	2,113	131.5%
東北	37,190	45,642	8,452	122.7%
関東	68,219	89,264	21,045	130.8%
中部	52,296	40,211	▲ 12,085	76.9%
関西	95,248	97,966	2,718	102.9%
四国	37,778	32,215	▲ 5,563	85.3%
中国	97,103	107,499	10,396	110.7%
九州	30,966	37,818	6,852	122.1%
沖縄	0	0	0	—
総計	425,501	459,429	33,928	108.0%

空コンテナ対比表

積地	合計(26年度)	合計(27年度)	合計対前年比(TEU)	合計コンテナ対前年比(%)
北海道	9,524	10,717	1,193	112.5%
東北	10,578	14,214	3,636	134.4%
関東	49,789	37,292	▲ 12,497	74.9%
中部	5,571	7,584	2,013	136.1%
関西	148,259	125,240	▲ 23,019	84.5%
四国	15,732	11,281	▲ 4,451	71.7%
中国	15,388	13,761	▲ 1,627	89.4%
九州	18,863	21,764	2,901	115.4%
沖縄	0	0	0	—
総計	273,704	241,853	▲ 31,851	88.4%



## 地域間流動比較(実入、空TEU)

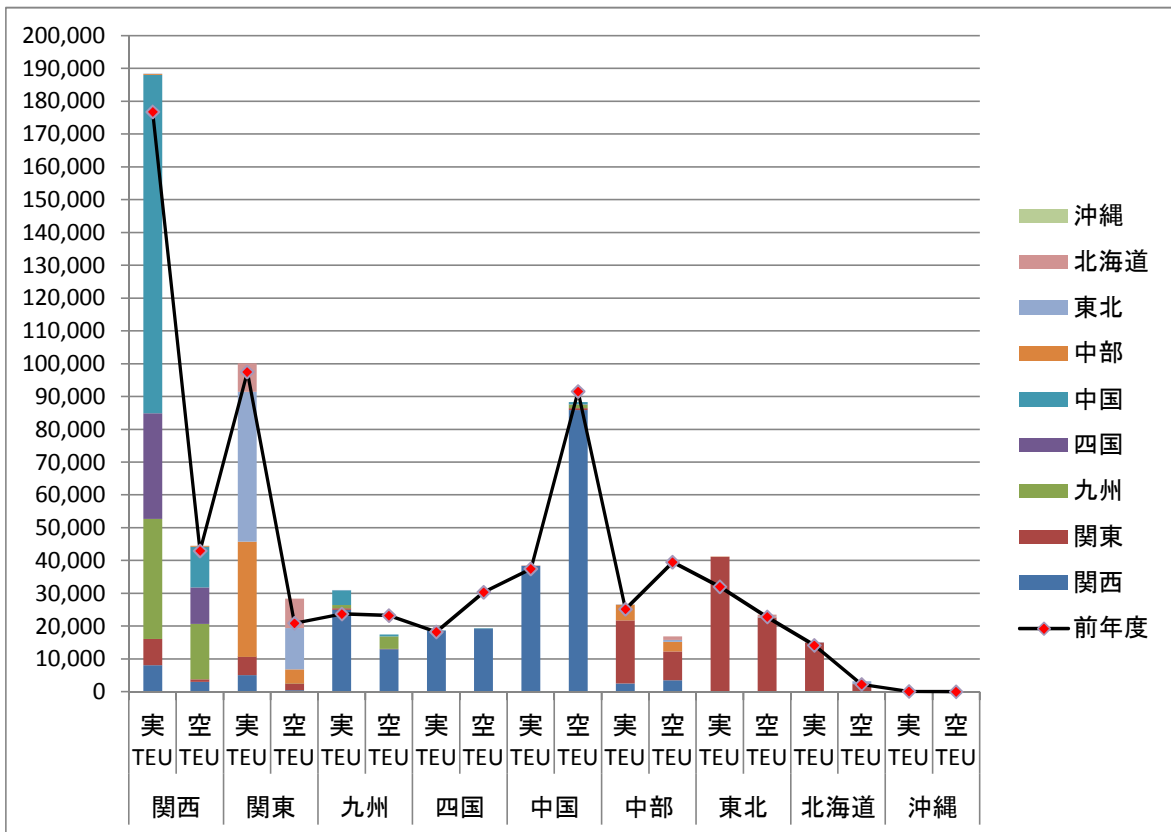
## 2. 揚港地域別流動比較

### 実入コンテナ対比表

揚地	合計(26年度)	合計(27年度)	合計対前年比(TEU)	合計コンテナ対前年比(%)
北海道	14,216	15,037	821	105.8%
東北	32,079	41,201	9,122	128.4%
関東	97,503	100,187	2,684	102.8%
中部	25,206	26,554	1,348	105.3%
関西	176,827	188,348	11,521	106.5%
四国	18,282	18,657	375	102.1%
中国	37,502	38,399	897	102.4%
九州	23,757	30,926	7,169	130.2%
沖縄	129	120	▲ 9	93.0%
総計	425,501	459,429	33,928	108.0%

### 空コンテナ対比表

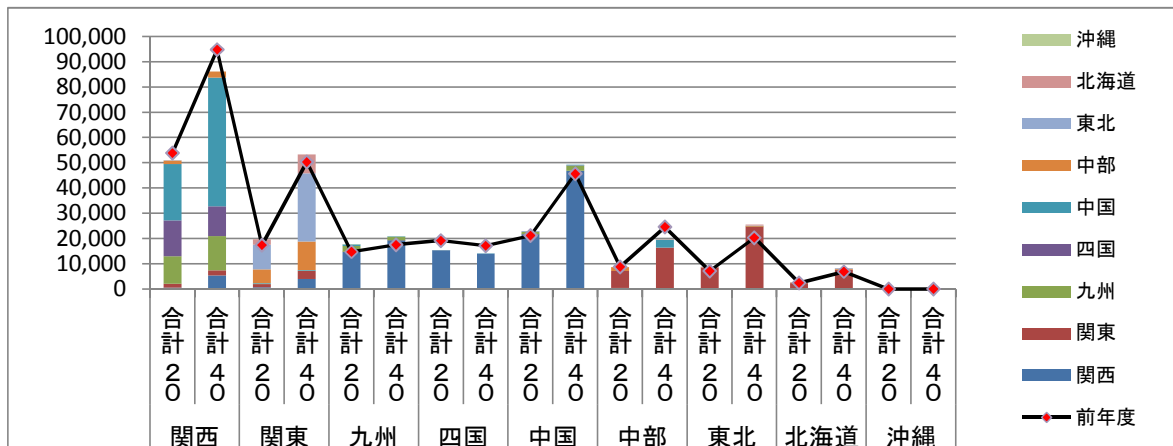
揚地	合計(26年度)	合計(27年度)	合計対前年比(TEU)	合計コンテナ対前年比(%)
北海道	2,245	3,287	1,042	146.4%
東北	22,819	23,545	726	103.2%
関東	20,872	28,470	7,598	136.4%
中部	39,583	16,889	▲ 22,694	42.7%
関西	42,983	44,519	1,536	103.6%
四国	30,391	19,330	▲ 11,061	63.6%
中国	91,547	88,336	▲ 3,211	96.5%
九州	23,264	17,477	▲ 5,787	75.1%
沖縄	0	0	0	—
総計	273,704	241,853	▲ 31,851	88.4%



### 地域間流動比較(20'、40')

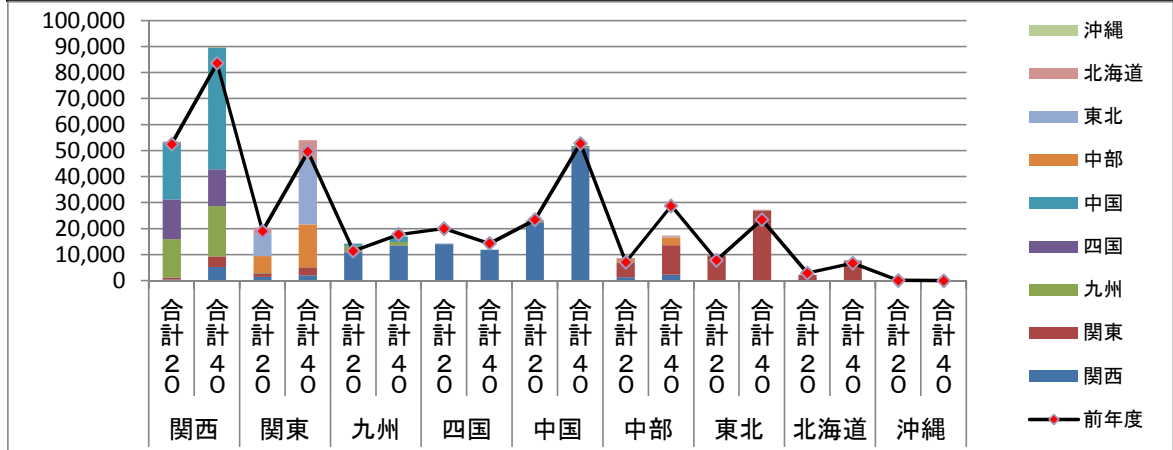
1. 積港地域別流動比較

積地	合計(26年度)		合計(27年度)		合計対前年比(本数)		合計コンテナ対前年比(%)	
	20'	40'	20'	40'	20'	40'	20'	40'
北海道	2,443	6,891	2,785	8,373	342	1,482	114.0%	121.5%
東北	7,132	20,318	8,742	25,557	1,610	5,239	122.6%	125.8%
関東	17,352	50,328	19,786	53,385	2,434	3,057	114.0%	106.1%
中部	8,795	24,536	8,733	19,531	▲ 62	▲ 5,005	99.3%	79.6%
関西	53,921	94,793	50,904	86,151	▲ 3,017	▲ 8,642	94.4%	90.9%
四国	19,166	17,172	15,310	14,093	▲ 3,856	▲ 3,079	79.9%	82.1%
中国	21,107	45,692	22,720	49,270	1,613	3,578	107.6%	107.8%
九州	14,727	17,551	17,708	20,937	2,981	3,386	120.2%	119.3%
沖縄	0	0	0	0	0	0	—	—
総計	144,643	277,281	146,688	277,297	2,045	16	101.4%	100.0%



2. 揚港地域別流動比較

揚地	合計(26年度)		合計(27年度)		合計対前年比(本数)		合計コンテナ対前年比(%)	
	20'	40'	20'	40'	20'	40'	20'	40'
北海道	2,923	6,769	2,248	8,038	▲ 675	1,269	76.9%	118.7%
東北	7,876	23,511	10,022	27,362	2,146	3,851	127.2%	116.4%
関東	19,063	49,656	20,509	54,074	1,446	4,418	107.6%	108.9%
中部	7,175	28,807	8,721	17,361	1,546	▲ 11,446	121.5%	60.3%
関西	52,588	83,611	55,463	89,702	2,875	6,091	105.5%	107.3%
四国	20,019	14,327	14,197	11,895	▲ 5,822	▲ 2,432	70.9%	83.0%
中国	23,449	52,800	23,161	51,787	▲ 288	▲ 1,013	98.8%	98.1%
九州	11,455	17,783	14,295	17,054	2,840	▲ 729	124.8%	95.9%
沖縄	95	17	72	24	▲ 23	7	75.8%	141.2%
総計	144,643	277,281	148,688	277,297	4,045	16	102.8%	100.0%

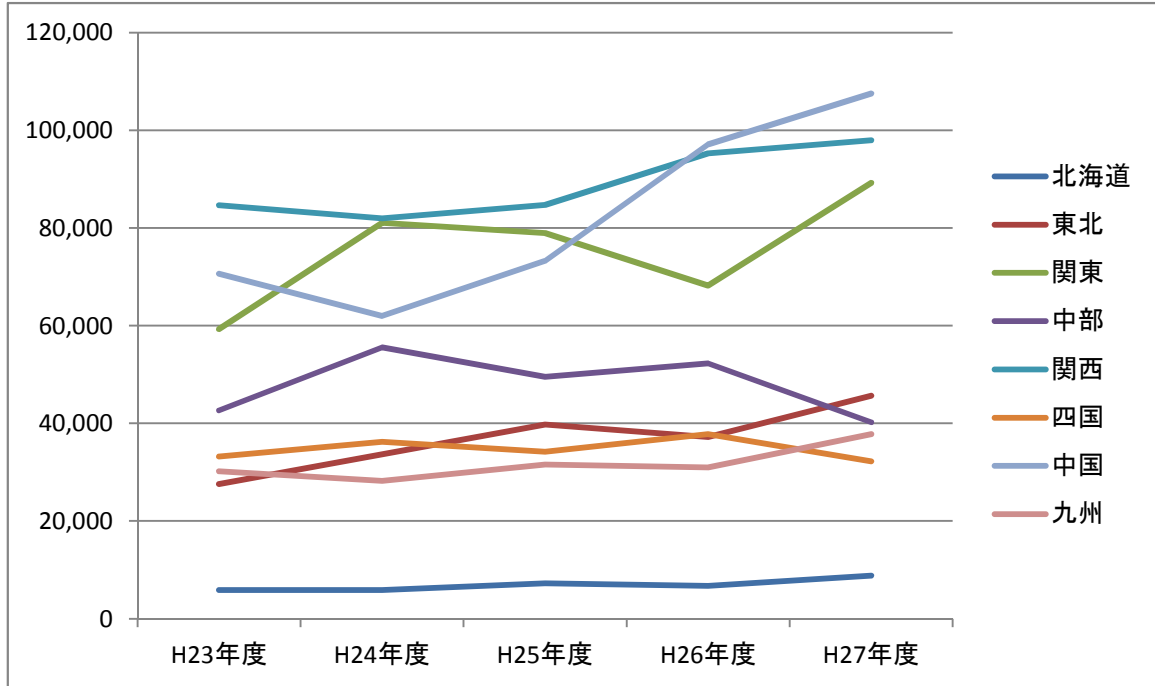




## 積揚地別実入りコンテナ年度別推移表 (H23～27年度)

### 積地別

(単位: TEU)



### 揚地別

(単位: TEU)

